

Kyoto Institute for
Regional Prospects

KIRP

NEWS LETTER

vol. 6

京都府立大学 地域貢献型特別研究(ACTR)

成果報告会 in 舞鶴



京都府立大学では、京都府内の地域振興や産業・文化の発展等に貢献することを目的に、地域貢献型特別研究(ACTR)を実施しています。府内各地で本学教員が自治体、NPO、経済団体などと連携して、地域課題解決に向けた調査研究活動に取り組んでいます。この度、今年度実施した研究の成果報告会を京都府北部の舞鶴赤れんがパークにて開催します。どなたでもお気軽にご参加ください。

平成30年3月18日(日) 10:30~17:30

場所 舞鶴市政記念館ホール

(舞鶴赤れんがパーク内・舞鶴市字北吸1039番地の2)



内容

・10:30-12:00 「住民と役所とのより良い関係-自治会の過去・現在・未来-」

講演 勝山 享 (京都府立大学公共政策学部)

・13:00-17:30 「海とともに生きる舞鶴-丹後の海再考-」

「古代の海と古代集落」 松本 達也 (舞鶴市文化振興課)

「丹後水軍と中世日本海流通」 廣瀬 邦彦 (京都府立東舞鶴高等学校)

「由良川水運の成立とその展開」 吉野 健一 (京都府立丹後郷土資料館)

「幕末~明治中期における丹後中近海航路」 小室 智子 (舞鶴市郷土資料館)

「明治中期における丹後の海と朝鮮半島」 牧野 雅司 (舞鶴工業高等専門学校)

「軍港都市舞鶴の誕生」 上杉 和央 (京都府立大学文学部)

「抑留の歴史がつなぐ過去と未来」 長嶺 睦 (舞鶴引揚記念館)

・パネルディスカッション

コーディネーター：藤本 仁文 (京都府立大学文学部)

入場無料・申込不要

KIRPについて

京都地域未来創造センター(KIRP)は、京都府立大学の「知」を活かし、地域の未来を創るための拠点として発足した地域に向けた総合窓口です。協働研究、受託研究等に関するご質問、ご相談があればお気軽にお問い合わせください。

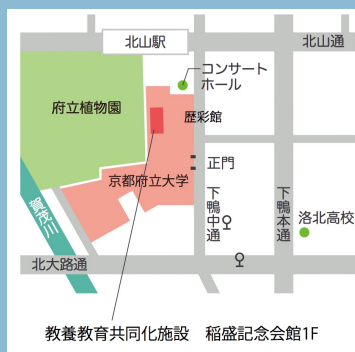
Tel & Fax : 075-703-5319
mail : kirpinfo@kpu.ac.jp
HP : <http://www.kpu.ac.jp/>

〒606-8522

京都市左京区下鴨半木町1-5

京都府立大学内教養教育共同化施設
「稻盛記念会館」1階

京都府立大学
京都地域未来創造センター
(KIRP)



ACTR 「地域運営組織の形成に向けた住民自治と団体自治の関係性及び地域へのアプローチ方策の検証」

報告

舞鶴市大浦地区において実施している地域貢献型特別研究(ACTR)は、センターの連続自治体特別企画セミナーの講演内容やブックレット『「みんな」でつくる地域の未来』にも関連する研究としてセンターの協力のもと、地域で暮らす人々が中心となって地域課題の解決に向けた取組を持続的に実践する地域組織の形成や地域住民の主体的な行動を調査、研究しています。

今回の研究にあたっては、地区にお住まいの中学生以上の全住民を対象にしたアンケートを実施しました。舞鶴市初の試みでありましたが、623世帯、1,598人に配布して、1,482人の方から回答をいただきました。回収率は92.7%と驚異的な数字となりました。

その高回収率から、地区に住まわれる皆さんの地域に対する強い思いや関心がうかがえますが、もう一つの要因は、アンケート実施にあたって地区の旧小学校区ごとにアンケート委員を選出いただき、住民自らが設問を考えたことが大きいと考えています。アンケート委員会では舞鶴市や京都府の職員もサポートに関わり、9~11月に3回のワークショップ形式で、地域の魅力や課題を話し合いながら、大浦地区ならではの設問を検討してきました。そうして出来上がったアンケートだからこそ、回答する側の住民にも積極的に協力してもらえたのではないのでしょうか。現在、研究室で分析作業を行っており、3月11日には大浦地区で結果報告会を開催する予定にしています。(勝山)



ワークショップの様子

第5回連続自治体特別企画セミナー(KIRPセミナー)

2月5日(月)、今年度最後となる第5回KIRPセミナー「景観の保全と地域づくり～持続可能な営みの変化をつむぐ景観計画をめざして～」を開催し、約60名の参加を頂きました。講師には神戸芸術工科大学環境デザイン学科教授の小浦 久子氏、高知県四万十市職員の川村 慎也氏をお迎えし、文学部の上杉和央准教授がコーディネーターを務めました。当日の様子をご報告します。

基調講演「景観の保全と地域づくり～持続可能な営みの変化をつむぐ景観計画をめざして～」

景観と風景

私たちが見ている風景は「いま」だけのものではない。有形・無形の営みが関わりあい、積み重なりながら成り立っている。景観にはその場所の風土の中で積み重ねられてきた営みや歴史が現れる。フランスの地理学者オギュスタン・ペルクは、近代のまなざしによる客観的な環境のとらえ方を「景観」とし、日本の伝統的な眺めを「風景」とした。日本の風景には環境をつくった社会や暮らしの性格をとらえる視点があり、何を美しいかと思うかに社会の慣習や倫理観が現れることから、風景は地域の文化的アイデンティティを示すと言っている。

景観の地域らしさ

景観の保全とは、その地域固有の風景の「地域らしさ」を記録し伝えることであり、「地域らしさ」に基づいて都市や集落の変化の方向を示すことである。景観計画はその役割を担う仕組みである。

景観計画とは

景観計画はこれまでの制度と異なり、計画内容の組み立てを自治体に委ねている。景観は基準を決めれば良くなるものではなく、その基準の意味や地域のあり方を伝えることが重要である。「どのような地域でありたいか」がまずあって、そのために必要な地域にあったしくみを組み立てる必要がある。まずは、地域の当たり前の風景を言葉にし、共有するところから始めてみてはどうだろうか。

事例報告「大切な風景を言葉にすること」～高知県四万十市の暮らしと風景と文化的景観～

「日本最後の清流」といわれる四万十川流域は、人間の生活と自然が調和した風景が残っており、国の重要文化的景観に選定されている。地域の人たちには小さな頃から川で遊んできた経験によって作法や節度のような「ニュアンス」が共有されておられ、これまで四万十川の景観はこの「ニュアンス」によって保全と活用が図られてきた。2008年に、四万十市では、「四万十市四万十川の保全と振興に関する基本条例」を景観法に基づく条例に改正し、「四万十川景観計画」を策定した。しかし、大きな変化が起こり得る事態が生じた。四万十川流域での太陽光発電事業計画である。その対応として、2015年、「四万十川景観計画」の改定に取り組むこととなったが、そこで、地域でゆるやかに共有されている「ニュアンス」を、地域の外の人たちと言葉にするという難しさに直面した。

「文化的景観」との出会い

議論の突破口となったのが文化的景観という見方であった。地域の人たちにとって当たり前すぎて意識していない地域の営みと風土に目を向け、「地域らしさ」を見出す試みが「文化的景観」である。専門家(研究者やコンサルタント)の後押しもあり、景観を言葉にしていくプロセスを経て、景観計画を改定することができた。太陽光発電事業に対しても、勧告を行い、意思表示ができた。地域の人たちの記憶や経験を手助けに「地域らしさ」に気づくことで、地域の価値を発信することができたのである。

※日本では2004年、景観法の創設と同時に文化財保護法が改正され「文化的景観」が文化財のひとつになった。
 <参考文献>「地域のみかたー文化的景観学のすすめー」(独法)国立文化財機構奈良文化財研究所(2016)

今年度のKIRPセミナー

- ・第1回(KIRP設立記念シンポジウム)「京都における地域の未来を拓く大学の役割」
- ・第2回「フロー型社会からストック型社会へ～資源の有効活用を考える産業エコロジー学からのアプローチ～」
- ・第3回「自治体と地域コミュニティのよりよい関係性に向けて～地域性のとらえ方・生かし方と分権的自治」
- ・第4回「共生」による地域社会の再構築」※公共政策学部公開講座との共催

今年度のセミナーが全て終了!

今年度の連続自治体特別企画セミナー(KIRPセミナー)参加者は延べ412名でした。ご来場頂きました皆様、ありがとうございました! 各回の講演レポートは、KIRPのホームページをご覧ください。

京都地域未来創造センター COC+だより
学生による地域のプロモーション動画が完成

本学では、地域で活躍する人材を育成するため、府中北部において農林漁業など様々な分野で活躍する「地(知)の案内人」と協働して「地域創生COC+教育プログラム」を実施しています。

今年度は、新たな科目として『地域創生フィールド演習』を実施しており、夏休みに宮津市、舞鶴市、福知山市、伊根町での演習に参加した6名のメンバーが『COC+学生チーム』を結成して地域をアピールする3本のプロモーションビデオを作成しました!

各演習先での様子を動画におさめ、テーマを決め、流れを組み立て、ナレーションを練習し…毎週のように集まり「ああでもない、こうでもない」と編集作業を進め、演習の雰囲気や内容、魅力が伝わる動画を完成することができました。また、宮津市上世屋の『NPO法人里山ネットワーク世屋』の主催する『暮らしの柿渋づくり』と『暮らしのかんじきづくり』の2つの講座に参加した学生達は、その様子を記録し、地域の人たちが今も受け継ぐ「暮らしの知恵と技」を形に残そうと、それぞれ動画にまとめてくれました。数ヶ月にわたり講座に参加したので、上世屋集落の季節の移ろいも感じることができました。COC+ホームページからぜひご覧ください!

(COC+事業担当)



※QRコードから
動画をご覧いただけます

(上) 宮津メディアセンターでの『地域創生フィールド演習』
(下) 暮らしの柿渋づくり

